

JA 全農ちば 営農情報集

2025 年
4 月



今月の情報

1. 水稻 田植え前後の管理について
2. 園芸野菜・果樹 病虫害防除情報
3. 情報提供 農薬試験

今月の気象（気象庁 3/27 発表 1 か月予報より）

天気は数日の周期で変わりますが、
平年に比べ晴れの日が少なくなる
予報です。

気温も徐々に高くなり、害虫も
少しずつ増えていく季節ですので
早めの害虫対策を行いましょう。

【気温】	20	30	50
【降水量】	30	30	40
【日照時間】	40	40	20

■：低い ■：平年並み ■：高い

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

JA全農ちば
営農技術センター

水稲 田植え前後の管理について

J A全農ちば

1. はじめに

本年も稲作が始まり、代かきや育苗管理作業で忙しくなります。気象庁発表の1か月予報では、気温は平年並みか、やや高いと予想されています。

3月では既に夏日(最高気温が25℃以上)となっている地域もありました。育苗中、急な温度変化による「ヤケ」等の発生の心配があります。特に被覆を新しく張り替えたハウスは温度管理を注意しましょう。

2. 今後の育苗管理について

【注意喚起！！】

急激な気温変化により、播種後の出芽が遅い・揃わない、普段は見られないカビや苗いもちの発生が散見されています。これ以降も播種作業を予定している場合は、以下の点を再確認し、温度管理を徹底しましょう。

◎浸種～出芽までの管理

- ・浸種時の水温目安は、10～15℃で実施（種子消毒同様）。
- ・積算水温 100℃を目安に(水温 10℃で10日間)水に漬け、十分に吸水させる。
※「ふさおとめ」、「ふさこがね」は他品種と比較し種子の休眠が深いため、浸種期間を他品種より長く（水温 10℃で12日程度）する。（千葉県発行 稲作標準技術体系より）
- ・浸種後3日目までは水の交換はせず、4日目以降に水を交換する（種子消毒の効果安定）。
- ・催芽はハト胸状態になるまで確実にこなう。
※温度(水温)30℃以下で24時間を目安に幼芽長1mm以内で完了。

表. 育苗時の温度管理

		出芽		緑化	硬化
		加温	無加温		
日数		2日前後	5日前後	3日前後	15～20日
温度(℃)	昼	30	20～30	20～25	25以下
	夜	30	10～20	10～20	5～10

ハウス内の温度が上昇してからでの換気では遅いので、高温が予想される日は早朝から換気を心がけましょう。

3. 田植え時の初期害虫防除について

初期害虫の種類と発生量を考慮し、箱施薬剤を選択しましょう。いもち病常発田や空散等の広域防除未実施地域は、殺虫殺菌混合剤の使用も検討しましょう。

使用のポイント

- 1箱あたりの使用量(50g)※を必ず守る。
- 散布前に苗についた露を払い落とす。
- 散布ムラに注意し、均一に散布する。
- 散布後は手で苗を払い、薬剤を下に落とす。の4点をしっかりと実施しましょう。

環境保全 環境負荷に係るリスク管理, 温室効果ガス削減の取組み、土づくりや施肥設計を通じた土壌管理！

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援課



※高密度播種に対応した使用量が登録されている剤もあります。使用にあたっては 最新の登録内容をご確認ください。

登録例

高密度には種する場合は

1kg/10a（育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1箱あたり 50~100g)

表. おすすめの箱施薬剤

対象病害虫	おすすめ商品
イネドロオウムシ	発生多い ・フェルテラ箱粒剤・アドマイヤーC R箱粒剤など
	発生少ない ・ワンリード箱粒剤 08・パダン粒剤 4 など
初期害虫+いもち病の常発田	・ブーンパディート箱粒剤・ ・デジタルコラトップアクタラ箱粒剤など
初期害虫+いもち病・紋枯病の常発田	・ブーンレパード箱粒剤 ・エバーゴルフオルテ箱粒剤など

4. スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

気温・水温が上がる5月上旬頃で移植後間もない苗で特に被害が出やすくなります。

薬剤防除だけに頼らず、耕種的防除と組み合わせて対応することが重要です。

（1）耕種的防除

- ・田植え前にジャンボタニシの捕殺に努め、水田の取水口に 5mm 以下の金網やネット等を設置して侵入を防ぐ。
- ・ピンク色の卵は水中に払い落とす。
- ・水田の畦畔および用排水路の雑草を刈り取る。
- ・深水部分では被害が多くなりやすいので、丁寧にかきを行い均平化を図る。
- ・稲4～5葉期までは4cm程度の浅水で管理して水田内での動きを抑制する。

（2）防除薬剤

薬 剤 名	使用時期	使 用 量	効 果
パダン粒剤 4	稲(稲育苗) 播種前又は田植当日	60～100 g／箱	食害防止
	本田初期 (収穫30日前まで)	4 kg/10 a	
スクミノン(注)	収穫60日前まで	1～4 kg/10 a	殺 貝（中貝～成貝）
ジャンボたにしくん(注)	収穫60日前まで	1～2 kg/10 a	殺 貝（中貝～成貝）
スクミンベイト3	発生時	2～8 kg/10 a	殺 貝

・殺貝剤でも貝が大きくなると防除効果は低下します。

・パダン剤等の食害防止剤は、スクミノン等の殺貝剤と効果が反発します。使用する場合は1週間以上空けて使用しましょう。

環境保全 環境負荷に係るリスク管理, 温室効果ガス削減の取組み、土づくりや施肥設計を通じた土壌管理 農薬の使用

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援課

注意)「スクミノン」と「ジャンボたにしくん」は同成分(メタアルデヒド)を含むため総使用回数に注意しましょう。



ジャンボタニシの成貝(左)と卵塊(右)

5. 雑草防除について

除草剤は登録上の「使用時期」を確認してから散布するようにしましょう。特に初期剤は田植え前の使用時期【代かき後～移植7日前まで】を厳守してください。

(1) 水稻除草剤使用上の注意点

- ア. 水田にどのような雑草が生えるか確認し、除草剤を選択する。
- イ. 田面が不均一だと効果にムラがでるため、代かきを丁寧に行い田面の均平を図る。
- ウ. 散布後3～4日間は水を切らさないようにし、除草剤の効果を安定させる。
- エ. 散布後7日間は落水やかけ流しをしない。
- オ. 各薬剤の散布量を守り、薬剤を正しく使用する。
- カ. 軟弱徒長苗や極端な浅植えは薬害の発生を助長するため避ける。

(2) 薬剤の処理方法

- ア. 比較的雑草の発生が少ない水田 ⇒ 一発処理による雑草防除
初中期一発剤を使って1回で防除する方法。「代かき～田植えまで」の日数を4日以内とし、田植え後10日以内に散布します。薬剤の使用時期を確認し、適用できるノビエの葉齢までに散布しましょう。
- イ. 多年生雑草、雑草発生量が多い水田 ⇒ 体系処理による雑草防除
初期剤と初中期一発剤(または中期剤)による2段階で防除する方法。発生期間が長い多年生雑草や、雑草発生量が多い圃場で、または「代かき～田植えまで」の日数が空いてしまう(1週間以上)場合などに行います。多年生雑草は栽培期間中長期にわたって発生が続くので、防除効果の高い体系処理が必要になります。

初期剤

先陣 (new)・ダッシュワンフロアブル・ピラクロンフロアブル・サキドリEWなど

★7年産 **イチ押し**おススメ初期除草剤**「先陣」**剤について★

「二つの藻類対策成分だからこそ高い抑制効果を発揮」!!

藻類発生前なら代かき後、移植後、どちらも対応!

有効成分: ジメタメトリン、ピラクロニル

表. 先陣剤の殺草スペクトラム

雑草名	ノビエ	ホタルイ	コウキヤガラ	オモダカ	アオミドロ・藻類 による表層はく離
散布適期	1 葉期まで	発生始期まで	発生始期まで	発生前まで	発生始期まで

表. 先陣剤の剤型/規格/使用量

剤型	規格	使用量
1 キロ粒剤	1 kg・10 kg・40 kg※	1 kg/10 a
ジャンボ剤	200 g	小包装(パック)10 個(200 g)/10 a
F G 剤	2 kg	200 g/10 a

※40 kg規格（1 キロ粒剤）はメガ得です。7 年産供給分の注文は締め切っています。
ご好評につき、売り切れの際はご容赦ください（1 キロ粒剤、F G 剤は現在入荷待ち）。



先陣 1 キロ粒剤



先陣ジャンボ



先陣 F G

初中期一発剤

サキガケ楽粒・バッチリ L X・プライオリティ・など

6. 適正な栽植密度の確保について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」は茎数が不足すると減収に繋がるので、栽植密度は 18 株/m²（60 株/坪）とし、移植時期が遅い場合も極端な疎植は避けましょう。

「コシヒカリ」の場合は 16~18 株/m²（53~60 株/坪）とし、植付が5月中旬~下旬の場合は施肥窒素量を減量し、栽植密度を 15~16.5 株/m²（50~55 株/坪）にしましょう。

7. 田植え後の水管理について

晴天日には浅水で管理し、活着を促し早期に分げつを確保しましょう。また、低温や強風の場合は深水で管理し保温に努めましょう。天候を無視した深水管理は分げつを抑制するので避けましょう。

園芸野菜 病害虫防除情報

1. はじめに

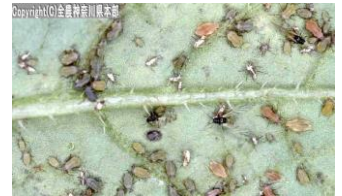
本年は3月の気温の高低差が平年よりも大きく、一部作物では害虫の発生がやや多くなっています。4月も継続して気温が高い予報が出ておりますので、害虫の急増、施設の温度管理には引き続き注意しましょう。

2. キャベツ・だいこん

(1) アブラムシ類

病害虫発生予報によると、4月のアブラムシ発生量は多となります。

主にダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシ・モモアカアブラムシが発生し、葉裏を中心に寄生します。被害が激しい場合は、外葉から枯死し、やがて株全体が萎凋枯死します。高温・乾燥の天候が続くと急増するため注意が必要です。また、収穫物にアブラムシ類が紛れていると異物混入にもなりますので、収穫中にも十分注意しましょう。



ニセダイコンアブラムシ

● キャベツ・ダイコン アブラムシ類 防除薬剤

キャベツ	ダイコン	IRACコード	薬剤名	希釈倍数 (倍)	使用時期* 1	使用回数
○	○	4A	アドマイヤーフロアブル	4000	キ:収穫7日前まで ダ:収穫14日前まで	2回以内
○	○	4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内
○	○	28	ベネビア OD	2000	収穫前日まで	3回以内
○	○	29	ウララ DF	2000~3000	収穫前日まで	2回以内

* 1 キ:キャベツの登録 ダ:ダイコンの登録

(2) コナガ

病害虫発生予報によると、4月のコナガの発生量はやや多となります。主に葉裏に寄生し葉肉を食害します。圃場確認の際は、葉をめくって裏まで確認しましょう。被害が激しい場合は、葉の葉心、葉脈のみを残して加害し、幼苗の場合は枯死します。乾燥条件が続くと多発するため、晴れ予報が続く場合には注意しましょう。

薬剤抵抗性の発達が非常に速い害虫です。同系統薬剤の連用・多用は避け、ローテーション防除を行いましょう。



● キャベツ・ダイコン コナガ 防除薬剤 * 1 キ:キャベツの登録 ダ:ダイコンの登録

キャベツ	ダイコン	IRACコード	薬剤名	希釈倍数 (倍)	使用時期* 1	使用回数
○	○	4 E	フィールドマストフロアブル	4000	キ:収穫前日まで ダ:収穫3日前まで	2回以内
○	○	5	ディアナ SC	2500~5000	収穫前日まで	2回以内
○	○	30	グレーシア乳剤	2000~3000	収穫7日前まで	2回以内
○	○		ブロフレア SC	2000~4000	収穫前日まで	3回以内

3. トマト

(1) コナジラミ類

千葉県内では主にオンシツコナジラミ・タバココナジラミが発生します。病虫害発生予報によると、どちらの種類も発生量はやや多となります。葉のすす汚れ被害に加え、トマト黄化病のウイルス（ToCV）を媒介します。また、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病のウイルス（TYLCV）も媒介し、近年問題化しています。

(2) アザミウマ類

千葉県内では主にミカンキイロアザミウマ・ヒラズハナアザミウマが発生します。食害による葉の「シルバリング症状」、産卵痕による果実の「白ぶくれ症状」被害に加え、トマト黄化えそ病のウイルス（TSWV）を媒介します。コナジラミ類、アザミウマ類ともに薬剤抵抗性の発達が非常に速いため、薬剤に頼りすぎない総合的な防除を行いましょう。



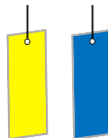
タバココナジラミ成虫



ミカンキイロアザミウマ成虫

○微小害虫防除のポイント

- ①ハウス、圃場内外の雑草は害虫の発生源・増殖源となるため、除去しましょう。
- ②ハウスには防虫ネットを展張し、ハウス内への害虫の侵入を防ぎましょう。目合いは0.4mm以下が理想的ですが、施設内環境に応じて選択しましょう。また、下写真の赤色防虫ネットは多くのアザミウマ類侵入抑制に有効です。
- ③ハウス内には粘着板（コナジラミ類—黄色、アザミウマ類—青色）を設置し、害虫の発生状況を把握しましょう。
- ④微小害虫は葉裏に多く寄生しているため、薬剤散布は葉裏にも薬剤がかかるように行いましょう。



● トマト コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤 マルハナ影響日数に注意

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数(倍)	対象害虫		使用時期	使用回数
			コ	ア		
4A	ベストガード水溶剤	1000~2000	○	○	収穫前日まで	3回以内
4C	トランスフォームフロアブル	1000~2000	○	—		2回以内
6	アフーム乳剤	2000	○	—		5回以内
9B	コルト顆粒水和剤	4000	○	—		3回以内
15	マッチ乳剤	2000	○	○		4回以内
28	ベネビア OD	2000	○	○		3回以内
30	グレーシア乳剤	2000	○	○		2回以内

コ：コナジラミ類 ア：アザミウマ類

果樹（ナシ） 病害虫防除情報

1. はじめに

本年は、例年並みの開花となる可能性があります。千葉県庁が出しているナシ開花予測システムでは、千葉市の豊水で4月3日、幸水で4月7日に開花初めの見込みです。暖かい気温が続く、生育の前進化が起こる場合、防除タイミングも前進化する可能性がありますので、気象情報や生育状況に留意し、薬剤散布適期を逃さないよう注意しましょう。

2. 4月の梨防除について

(1) 黒星病芽基部病斑（右写真）を確認した場合は摘除しましょう。

(2) 長雨や強雨の影響で追加防除が必要な場合や、開花期間が一週間以上にわたる可能性がある場合は、トレノックスフロアブルを追加で散布しましょう。ただし、散布当日の受粉作業は控えましょう。

(3) ニセナシサビダニ対策が必要な園は、新梢の展葉後にモベントフロアブル散布を実施しましょう。

なお、アブラムシ類防除に重点を置く場合、モベントフロアブル散布時期をやや後ろにずらすことも可能です。他方、アザミウマ類防除に重点を置く場合は、コテツフロアブルを散布しましょう。



(4) 防除暦（4月部分抜粋）

時期（目安）		防除方法	使用倍数	備考
りん片脱落 終了後～ 開花直前	4月上旬	マネージDF	6,000倍	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症の防除のため使用する。 ・ハマキムシ類やモンシロドクウガなどの食葉性害虫対策はエクシレルSEを散布する
		トレノックスフロアブル	500倍	
		ウララDF	2,000倍	
開花期	4月中旬	芽基部発病芽の摘除 (交配時に努めて実施)		・交配期間が7日以上にわたり黒星病の発生が心配される場合に限り、トレノックスフロアブル（500倍）を散布する。ただし、受粉当日の散布は控える。
受粉終了後	4月中旬 ～ 4月下旬	スコア顆粒水和剤 トレノックスフロアブル バリアード顆粒水和剤	4,000倍 500倍 4,000倍	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症の防除のため使用する。 ・疫病の発生が心配される場合はアリエッティ水和剤（1,000倍）を散布する。 ・チャノキイロアザミウマの発生が多い場合はコテツフロアブルを散布する。
	4月下旬 ～ 5月上旬	新梢展葉を確認後、 モベントフロアブル	2,000倍	

※時期は平年の目安です。防除の時期は生育状況に合わせて農薬散布を行いましょう。

※マネージDFやスコア顆粒水和剤はDMI剤（FRACコード：3）に分類される同系統の薬剤です。開花時期の重要な黒星病防除剤ですが、感受性低下の恐れが非常に高い薬剤でもあります。必要以上の連用・多用は避け、散布時はトレノックスフロアブル等の保護殺菌剤とあわせて使用し、耐性菌発生リスクを低減させましょう。

初期剤

初・中期一発剤

先陣® & セイテン®

2剤の体系処理で、藻類・雑草の発生を長く抑える!!

慣行区 | 試験区



図. 畦畔・境目から撮影

慣行区 | 試験区



図. 各枠内の藻類・雑草の抜き取り

試験方法および結果

1. 試験区

(1) 初期剤: 先陣1キロ粒剤 4月23日 田植同時処理 1kg/10a

(2) 初・中期一発剤: セイテンジャンボ 5月2日 250g/10a

2. 慣行区

(1) 初期剤: ブタクロール・ACN粒剤 4月23日 田植同時処理 1kg/10a

(1) 初・中期一発剤: トリアファモン・フェンキノトリオン剤 5月8日 250g/10a

3. 調査方法

初期剤処理2日後に、規定の枠を設置し、達観による観察をおこなった。最高分げつ期(中干し直前)に枠内に発生した藻類・雑草を抜き取り、計測した。

4. 結果

各試験区の枠合計3.5㎡当たりの藻類発生は慣行区5,530g、試験区150g。雑草は慣行区でオモダカ草丈50cmが1株、試験区は雑草発生無し。枠外の藻類発生(被覆率)慣行区9割程、試験区0.5割程度。

★まとめ・使用のポイント: 先陣剤・セイテン剤ともに藻類の発生抑制の効果主体であるため、藻の発生前に体系処理することで長く抑えることが可能。藻類専用剤の追加散布削減で労力・経済効果◎

試験実施主体: J A西印旛・J A全農ちば・協友アグリ株式会社・クミアイ化学工業株式会社

新規殺虫剤 フィールドマストフロアブルの特徴



J A全農ちば 営農支援課

特徴

✓ フィールドマストフロアブルは、新規有効成分ジクロロメゾチアズが神経伝達を阻害することで、食害抑制による高い殺虫効果を発揮する新規園芸用殺虫剤です。新規作用機作(IRAC:4E)であるため、既存の殺虫剤との抵抗性管理に貢献します。また、ミツバチに対しては高い安全性を持っております。

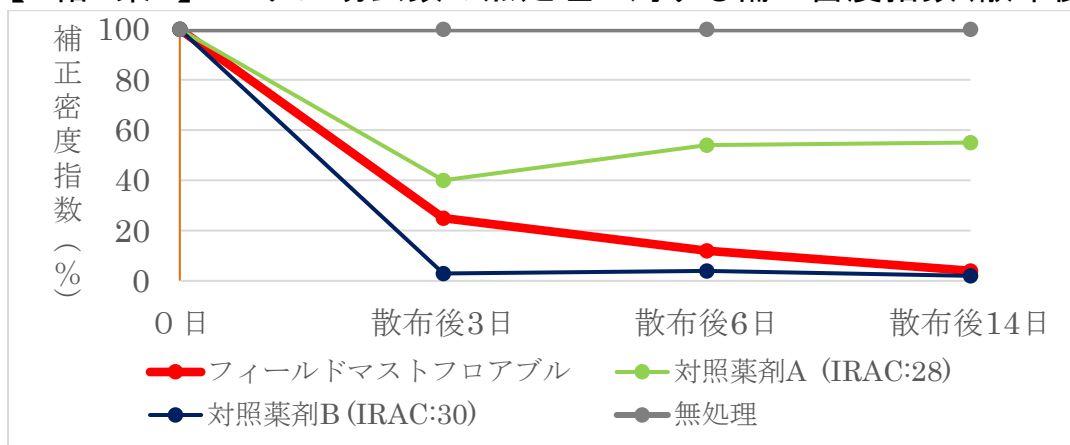


✓ 本剤は、コナガだけでなく、アオムシ、ハスモンヨトウなどのチョウ目害虫、キスジノミハムシなどのコウチュウ目害虫にも優れた効果を示します。特に、コナガに対する殺虫性と残効性が高く、発生初期からの防除に適しています。ただし、オオタバコガへの殺虫効果は期待できません。

✓ アブラナ科野菜を中心に、幅広い作物に登録されており、安定した防除効果が期待できます。浸達性がある薬剤ですが、散布ムラに注意しましょう。

JA 全農ちば試験 キャベツ:チョウ目害虫への効果試験抜粋 (実施日:令和6年5月)

【結果】・コナガ幼虫数の無処理に対する補正密度指数(散布後14日後)



→コナガへの効果は基幹剤と同程度(補正密度指数は0~25%が十分に効果あり)

フィールドマストフロアブル 登録内容抜粋

作物名	適用病害虫	希釈倍数	使用時期	使用回数
カブ	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、キスジノミハムシ、ハイダラノメイガ	4,000 倍	収穫前日まで	2 回以内
キャベツ	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ハイダラノメイガ、ウバ類			
ダイコン	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、キスジノミハムシ、ハイダラノメイガ、カブラハバチ		収穫3日前まで	

※他、コマツナ・レタス類・結球、非結球あぶらな科葉菜類などにも登録あり